J-STAGE Data の現状紹介

J-STAGE Data ユーザ会

2023年11月30日

科学技術振興機構

オープンアクセスをとりまく環境の激変

日本は、2025年度から公的資金による研究成果論文の**即時オープンアクセス**を打ち出した！

2023年5月12日-14日　G7仙台科学技術大臣会合 共同声明
「G7は、公的資金による学術出版物及び科学データへの即時のオープンで公共的なアクセスを支援」

2023年5月20日　G7広島首脳コミュニケ
「G7は、FAIR原則に沿って、科学的知識並びに研究データ及び学術出版物を含む公的資金による研究成果の公平な普及による、オープン・サイエンスを推進する」

2023年6月9日 閣議決定 「統合イノベーション戦略2023」
「我が国の競争的研究費制度における2025年度新規公募分からの学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた国の方針を策定する」

J-STAGE登載誌においても、オープンアクセスへの対応は「**まったなし**」

「OAの実現に向けた基本的な考え方」

2023年10月30日　内閣府 総合科学技術・イノベーション会議 有識者議員
「公的資金による学術論文等のオープンアクセスの実現に向けた基本的な考え方」

〈理 念〉

1. 公的資金によって生み出された研究成果を広く国民に還元する
2. 国全体での購読料および掲載料（APC）を含む経済的負担を適正化する
3. 世界に対する研究成果の発信力の向上を図る

- 2025年度より新たに公募する即時オープンアクセスの対象となる競争的研究費を受給する者に対し、論文及び根拠データの学術雑誌への掲載後、即時に機関リポジトリ等の情報基盤への掲載を義務づける
- グローバルな学術出版社等に対する大学を主体とする集団交渉の体制構築を支援し、我が国の公的資金全体における負担軽減を図る
- 大学等における機関リポジトリの価値向上、成果発信力の強化を行う

即時オープンアクセスの実現

研究データの公開が義務づけられつつある

2021年4月27日　内閣府 統合イノベーション戦略推進会議
「公的資金による研究データの管理・利活用に関する基本的な考え方」

公的資金による論文のエビデンスとしての**研究データは原則公開**とする

公的資金により得られた研究データについて、2023年度までに**体系的なメタデータの付与**を進め、研究データ基盤システム上で検索可能とする

2023年6月9日 閣議決定 「統合イノベーション戦略2023」

公募型の研究資金の全ての新規公募分について**メタデータ付与を行う仕組みを2023年度までに導入**する

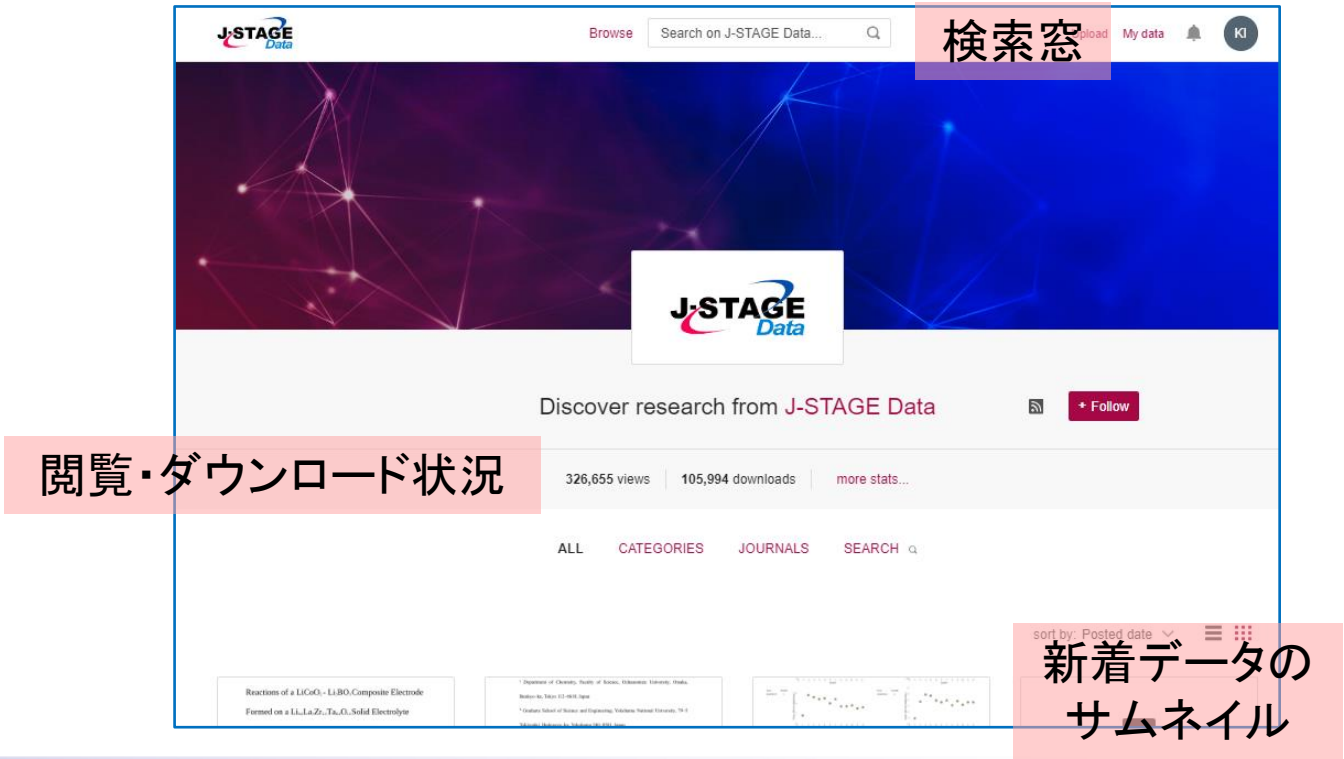
▶ 研究データはどこに登録・公開してもいいが、国立情報学研究所 Research Data Cloud（NII RDC）での**メタデータの検索を可能**とする

2023年10月30日　内閣府 総合科学技術・イノベーション会議 有識者議員
「公的資金による学術論文等のオープンアクセスの実現に向けた基本的な考え方」

2025年度より新たに公募する即時オープンアクセスの対象となる競争的研究費を受給する者に対し、**論文及び根拠データ**の学術雑誌への掲載後、**即時に機関リポジトリ等の情報基盤への掲載を義務づける**

J-STAGE Dataとは

- J-STAGEの登載論文に付随するデータを登載・公開する**データリポジトリ**
- すべてのデータは**オープンアクセス**で公開、ダウンロード・再利用が可能
- 2020年3月リリース
- トップ画面　https://jstagedata.jst.go.jp/



データをJ-STAGE Dataに収載するメリット

とくに Supplementary Material（電子付録）と比較して

データに、論文とは独立して、

メタデータ、**DOI**、**CCライセンス** を付与

↓

検索される、**引用**される、**再利用**される

データが論文とは独立に流通する！

そのほか、

- GBサイズ、また、多様なファイル形式のデータを公開できる
- 閲覧数や被引用数など、統計情報が得られる
- プレビュー機能により、元論文においても見やすくなる

研究データの公開義務づけに対し

J-STAGEから出版・公開された論文について、付随する研究データの

FAIR原則 にそったデータ公開

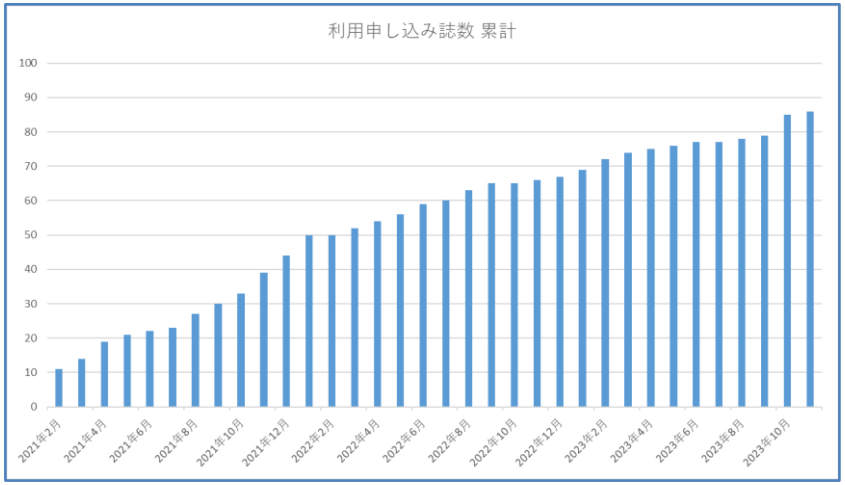
公的資金による研究データに義務づけられる

体系的なメタデータ の付与

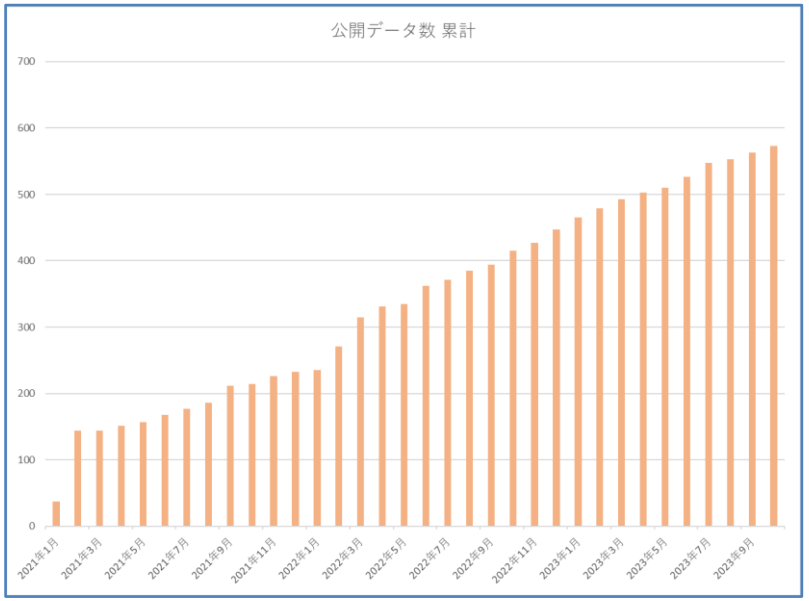
は、J-STAGE Dataからの公開により可能になる

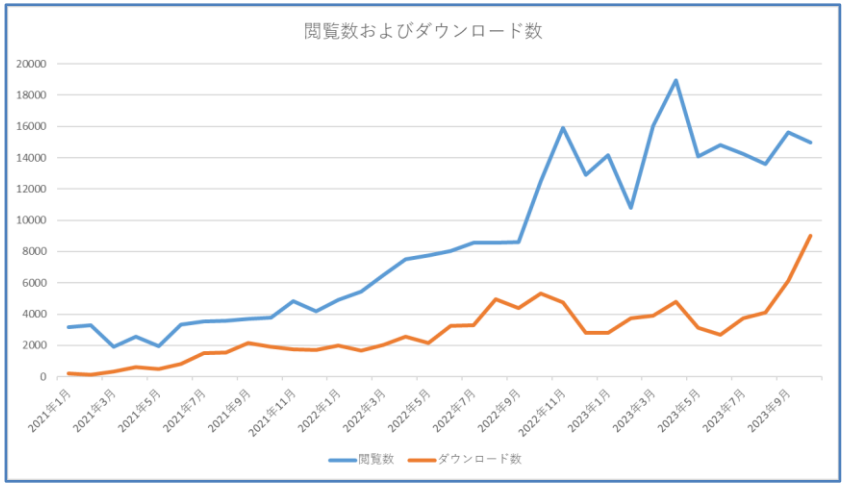
Supplementary Material（電子付録）では実現できない

J-STAGE Data の現状



利用申し込み・公開データとも
順調に増加している





月間閲覧数は 約 15,000

ダウンロード数は日本と米国とで拮抗

現時点でのJ-STAGE Dataのデータ登載誌

Acta Arachnologica
AI・データサイエンス論文集/Artificial Intelligence and Data Science
Annals of Business Administrative Science
Annals of Clinical Epidemiology
マーケティングジャーナル/Japan Marketing Journal
人工知能学会論文誌/Transactions of the Japanese Society for Artificial Intelligence
保全生態学研究/JAPANESE JOURNAL OF CONSERVATION ECOLOGY
国立科学博物館研究報告B類（植物学）/Bulletin of the National Museum of Nature and Science. Series B, Botany
Anthropological Science
Biophysics and Physicobiology
Bird Research
Cell Structure and Function
地質学雑誌/The Journal of The Geological Society of Japan
季刊地理学/Quarterly Journal of Geography
応用物理/Oyo Buturi
情報の科学と技術/The Journal of Information Science and Technology Association
Electrochemistry
Engineering in Agriculture, Environment and Food
Environmental and Occupational Health Practice
Equilibrium Research
情報教育ジャーナル/Journal of Informatics Education
日本リモートセンシング学会誌/Journal of The Remote Sensing Society of Japan
日本森林学会誌/Journal of Japanese Forest Society
林業経済/FOREST ECONOMY
Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition
JOURNAL OF OLEO SCIENCE
Journal of UOEH
Mass Spectrometry
気象集誌/Journal of the Meteorological Society of Japan
河川観測の新時代/New Waves in Hydrometry
生体医工学/Transactions of the Japanese Society for Medical and Biological Engineering
第四紀研究/The Quaternary Research
Researches in Organic Geochemistry
アジア民族文化研究/ASIAN FOLK CULTURE STUDIES
デジタルアーカイブ学会誌/Journal of Japan Society for Digital Archive
デジタル・ヒューマニティーズ/Japanese Journal of Digital Humanities
粉/KONA Powder and Particle Journal
組織科学/Organizational science
魚類学雑誌/Japanese Journal of Ichthyology

- J-STAGE Dataに利用申し込みをしたジャーナルは**86誌**。
- **39誌**のジャーナルから、**630以上の**データが公開されている。
- 自然科学系のジャーナルにかぎらず、人文科学系・社会科学系のジャーナルからもデータが公開されている。

（2023年11月29日 現在）

J-STAGE Dataのめざすところ

- J-STAGE登載誌の論文付随データ公開の場
  - J-STAGEに登載された論文に関係しないデータは公開しない
  - ジャーナル編集委員会による査読・確認のうえで公開する
  - 研究コミュニティですでに確立したデータバンク・データレポジトリがある場合は、J-STAGE Dataは利用しない
- 研究データの二次利用推進
  - 二次利用（再利用）が期待される・想定される研究データを、第三者による二次利用が可能なよう、FAIR原則にそって公開する
  - 電子付録（Supplementary Material）とは棲み分ける・使い分ける
  - たんなるデータ置き場にはしない
- 研究データ公開およびデータ産生者の評価
  - 研究データを公開すること、それが引用・二次利用されることが研究者としての業績となり、データ産生者の評価にもつながることを期待

J-STAGE Data 現状の問題点

- 研究データがなかなか公開されない

  J-STAGE Dataにデータ登載可能となって6ヶ月以上経過した74誌のうち
  36誌は、まだデータを登載していない

  J-STAGE Dataにてすでにデータを登載している39誌について
  15誌は、6ヶ月以上データを登載していない

- FAIR原則をみたさないまま公開される場合が多い

  データの二次利用のためには、データを機械可読なものにする、メタデータを充実させるなどして、FAIR原則にそったものとする必要がある

  現状は、JSTにて、データ公開の直後（あるいは、公開前）にすべてのデータ・メタデータをキュレーションし、必要最低限の修正を依頼している

→ 研究者・ジャーナルの負担、データ公開のモチベーション